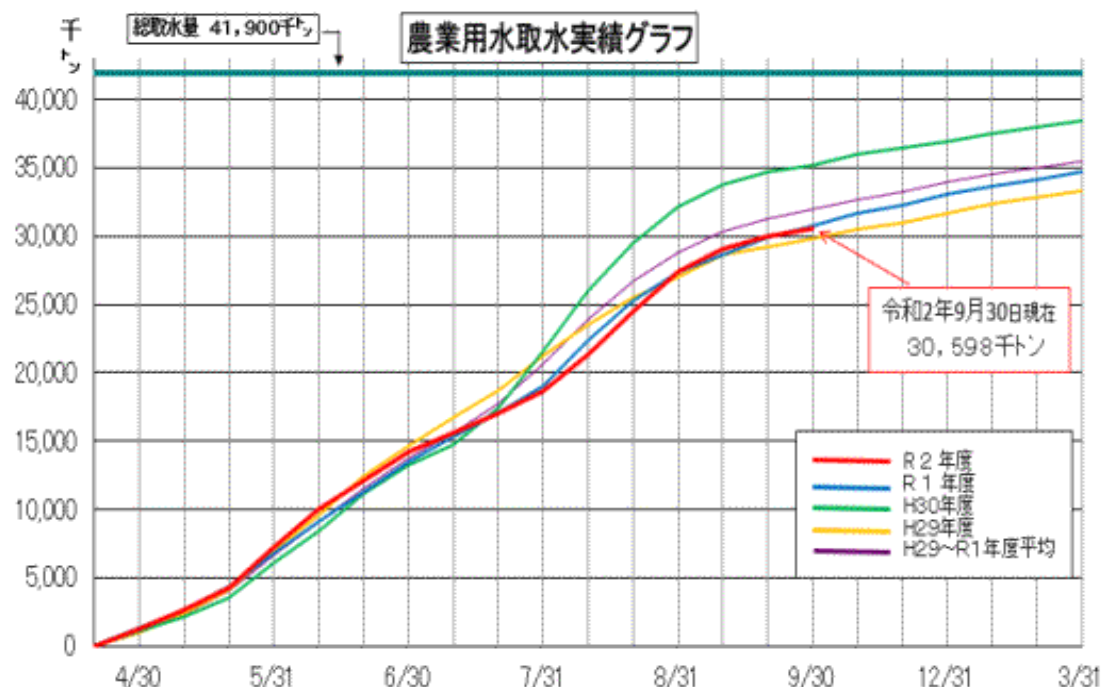




岩屋ダム利水貯水量 6,190万トン（貯水率100%）
農業用水取水量 3,060万トン（取水率73%）（ともに9月30日現在）

日脚も短くなり、秋の深まりを感じる季節となりました。利水者の皆様におかれては、稲の収穫も最終期を迎え多忙の日々をお過ごしのことと思いますが、季節の変わり目であるこの時期は昼と夜の気温差が大きくなりますので体調管理には十分ご留意下さい。



さて、今年の岩屋ダムの利水貯水状況は、5月の降水量が平年の約60%と少なく、6月10日には貯水率が72.8%まで低下しましたが、梅雨入り後のまとまった降雨とその後の周期的な降雨によりほぼ満水の状況で安定的に推移しています。

一方、4月から9月までの灌漑期の農業用水取水量は、9月30日現在、3,060万トン（取水率73%）で、過去3か年の平均取水量より134万トン程少なくなっています。現時点において過去3か年の平均取実績から本年度の総取水量を推計しますと3,416万トン程となり、右岸用水における農業用水の年間総取水量の枠内（4,190万トン）に収まる見込みです。利水者の皆様には、引き続き用水施設の適切な管理に心がけていただきますようお願いいたします。

◇坂祝支線で漏水事故発生

9月19日、坂祝町黒岩地内の坂祝支線FRPM管（口径900mm、25年経過）の管体破裂による漏水事故が発生しました。出水量が多く二次災害が懸念されましたので緊急に断水をさせていただき補修工事を実施しましたが、大口径のため補修及び充水に時間がかかり通水までに3週間程度要しました。関係者の皆様のご理解ご協力に感謝申し上げますとともに、近隣の皆様には、出水による土砂の流入・冠水等で大変ご迷惑をおかけしましたこと心よりお詫び申し上げます。

なお、連合では今回の事故を契機にさらなるパトロールの強化を進めるとともに、水資源機構に対し老朽化施設の保全対策について早急に取り組んでいただくよう引き続き強く要望して参りたいと考えております。



出水状況



道路陥没状況

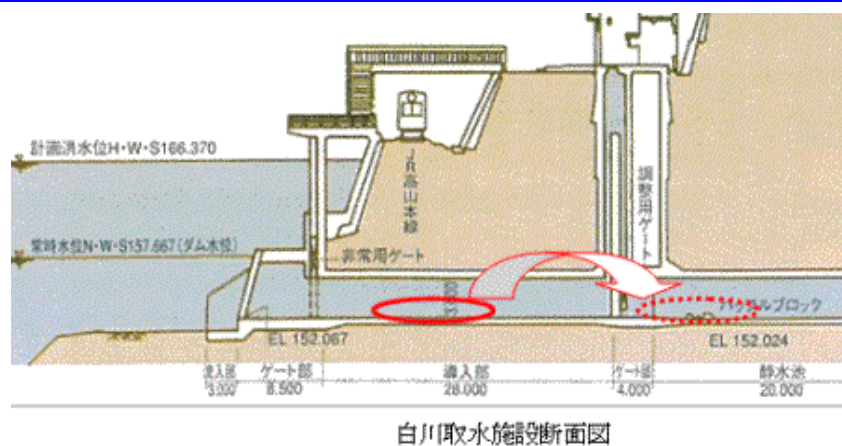


管体破裂状況

◇白川取水施設でフラッシング操作を実施

9月26日、水資源機構美濃加茂管理所では、県東部広域水道事務所との「木曽川右岸施設におけるカビ臭物質対策に関する協定書」に基づき、カビ集物質の発生原因となる堆積した土砂を流下させるフラッシング操作を実施しました。

白川取水施設の非常用ゲートと調整用ゲートに堆積した土砂は、水路外への除去作業が困難なため、一旦、人力で調整用ゲート下流まで移動させた後、ゲートの開閉操作により通水量を増加させ土砂を流下（約30m³）させました。



白川取水施設断面図

※農業用水情報は今月号をもって休刊とさせていただきます。令和3年4月より再び発刊させていただきますので宜しくお願いします。

